



データベース管理

- [外部データベースクリーンアップユーティリティ \(1 ページ\)](#)
- [外部データベースのマージ \(3 ページ\)](#)
- [1つの外部データベースから別のデータベースへの永続的なチャットルームの移行 \(6 ページ\)](#)

外部データベースクリーンアップユーティリティ

外部データベースクリーンアップユーティリティを使用すると、管理者は外部データベースの拡張を簡単に管理できるため、システムが最適なレベルで実行され続けることが保証されます。このユーティリティでは、外部データベースを継続的にモニタするジョブを作成し、期限切れになった古いレコードを自動的に削除することができます。これにより、外部データベースに十分なスペースが確保され、オフにしたデータベースの増加によってシステムパフォーマンスが影響を受けることがなくなります。

外部データベースのクリーンアップユーティリティを使用して、次のIMおよびプレゼンスサービス機能の外部データベースの拡張を管理できます。これらの機能はそれぞれ外部データベースに依存します。

- 常設チャットのハイ アベイラビリティ
- マネージドファイル転送
- メッセージアーカイブ

連携動作

次のインタラクションが適用されます。

- データベースから削除されたレコードは、アーカイブされずに削除されます。
- データベースクリーンアップユーティリティはオフラインモードで実行できます。
- 永続的なチャットルームの設定オプションは、保持期間のクラスタ全体の設定を上書きするために提供されます。これにより、チャットルームの所有者は、制御された範囲内の設

定をカスタマイズできます。これは、このメニューオプションを有効にするための Jabber クライアントの変更によって異なります。

ストアド プロシージャ

External Database Cleanup Utility は、次のストアド プロシージャを使用してレコードを削除します。

- tc_msgarchive_auto_cleanup
- tc_timelog_auto_cleanup
- aft_log_auto_cleanup
- im_auto_cleanup

外部データベース クリーンアップユーティリティの実行

External Database Cleanup Utility を実行して、期限切れのレコードを外部データベースから削除するには、この手順を使用します。手動クリーンアップを実行して、1 回限りのデータベースからのレコード削除を実行したり、外部データベースからレコードを自動的に監視および削除するようにシステムを設定することもできます。

手順

- ステップ 1** データベース パブリッシャ ノードで Cisco Unified CM IM and Presence Administration にログインします。
- ステップ 2** メッセージング > 外部データベースの設定 > 外部データベース を選択します。
- ステップ 3** 外部 DB のクリアをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
 - パブリッシャ ノードに接続する外部データベースを手動でクリーンアップするには、**samecup ノード**を選択します。
 - サブスクリバノードに接続する外部データベースを手動でクリーンアップする場合は、**その他の CupNode** を選択してから、外部データベースの詳細を選択します。
 - 外部データベースを自動的にモニタおよびクリーンアップするシステム設定の場合は、**自動クリーンアップ** オプション ボタンをオンにします。

(注) 自動クリーンアップを設定する前に、手動でのクリーンアップを実行することを推奨します。
- ステップ 5** いつまでさかのぼってファイル削除をするかの**日数**を設定します。たとえば、90 を入力した場合、システムは 90 日前以前の古いレコードを削除します。
- ステップ 6** データベースのインデックスとストアド プロシージャを作成するには、**スキーマの更新** をクリックします。

(注) スキーマの更新は、このジョブを最初に実行するときのみです。

ステップ7 いつまでさかのぼってファイル削除をするかの**日数**を設定します。たとえば、**90**を入力した場合、システムは**90**日より前の古いレコードを削除します。

ステップ8 **機能テーブル** セクションで、レコードをクリーンアップする各機能を選択します。

- **テキスト会議**：常設チャット機能のデータベーステーブルを消去するには、このオプションを選択します。
- **メッセージアーカイバ (MA)**：メッセージアーカイバ機能のデータベーステーブルをクリーンアップするには、このオプションを選択します。
- **非同期ファイル転送 (AFT)**：マネージドファイル転送機能のデータベーステーブルを消去するには、このオプションを選択します。

ステップ9 [クリーンアップジョブを送信 (Submit Clean-up Job)] をクリックします。

(注) [自動 (Automatic)] オプションが有効になっていて、それを無効にする場合は、[自動クリーンアップジョブの無効化 (Disable Automatic Clean-up Job)] ボタンをクリックします。

次のタスク

手動クリーンアップを実行したばかりの場合は、この手順を繰り返して、**自動クリーンアップ**を選択して、レコードを自動的に監視して削除するようにユーティリティを設定します。

外部データベースのクリーンアップユーティリティのトラブルシューティング

外部データベースユーティリティで問題が発生した場合は、次のコマンドを実行します。

- データベースパブリッシャノードが外部データベースに接続できること、およびデータベースがプロビジョニングされていることを確認してください。[**Messaging > External Server SETUP > external Databases > external DB Configuration**] を選択して、データベースパブリッシャノードでこれを確認できます。
- PostgreSQL データベースの場合は、IM and プレゼンスデータベースパブリッシャノードに、他の設定済みのすべての外部データベースへのフルアクセス権限があることを確認してください。

外部データベースクリーンアップツールのログは、admin logs:

/var/log/active/tomcat/logs/cupadmin/log4j/で入手できます。

外部データベースのマージ

外部データベースをマージするには、以下の手順を使用します。



- (注) Microsoft SQL データベースに関しては、外部データベースのマージはサポートされていません。

オプション。11.5 (1) 以前のリリースからアップグレードしており、複数の外部データベースを使用して冗長性を管理している場合は、外部データベースのマージツールを使用して、外部データベースを1つのデータベースにマージします。

例

11.5 (1) 以前のリリースからアップグレードしており、常設チャット ノードごとに個別の外部データベースインスタンスに接続する場合は、以下の手順を使用して、サブクラスタ内の2つのデータベースを1つのデータベースにマージして、両方のノードに接続します。

始める前に

- 2つのソースおよび対象データベースが、プレゼンス冗長グループの各 IM and Presence Service ノードに正しく割り当てられていることを確認します。これにより両方のスキーマが有効であることが確認されます。
- 対象データベースのテーブルスペースをバックアップします。
- 対象データベース上に、新しくマージされたデータベースが十分に収まる領域があることを確認します。
- ソース データベースと接続先データベース用に作成されたデータベース ユーザに、以下のコマンドを実行する権限があることを確認します。
 - CREATE TABLE
 - CREATE PUBLIC DATABASE LINK
- データベースユーザにこれらの権限がない場合は、次のコマンドを使用して付与することができます。
 - PostgreSQL :
CREATE EXTENSION : dblink を作成し、スーパーユーザ権限または dbowner 権限を要求します。その後、次のコマンドを実行して dblink の EXECUTE 権限を付与します。
GRANT EXECUTE ON FUNCTION DBLINK_CONNECT(text) to <user>
GRANT EXECUTE ON FUNCTION DBLINK_CONNECT(text,text) to <user>
 - Oracle :
GRANT CREATE TABLE TO <user_name>;
GRANT CREATE PUBLIC DATABASE LINK TO <user_name>;
- PostgreSQL 外部データベースを使用している場合は、以下のアクセスが pg_hba ファイルに設定されていることを確認してください。

- IM and Presence パブリッシャ ノードは、各外部データベースに対して完全なアクセス権を持っている必要があります。
- 外部 PostgreSQL データベースには、各データベースインスタンスへの完全なアクセス権が必要です。たとえば、外部データベースが 192.168.10.1 に設定されている場合は、各データベース インスタンスが、pg_hba ファイル内で `host dbName username 192.168.10.0/24 password` と構成されていなければなりません。

手順

- ステップ 1** IM and Presence Service パブリッシャ ノード上の [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] にサインインします。
- ステップ 2** プレゼンス冗長グループの各 IM and Presence Service ノードの [システム (System)] > [サービス (Services)] ウィンドウで Cisco XCP Text Conference Service を停止します。
- ステップ 3** [メッセージング (Messaging)] > [外部データベースの設定 (External Server Setup)] > [外部データベース ジョブ (External Database Jobs)] をクリックします。
- ステップ 4** マージジョブのリストを表示するには、[検索 (Search)] をクリックします。新しいジョブを追加するには、[マージジョブの追加 (Add Merge Job)] を選択します。
- ステップ 5** [外部データベースのマージ (Merging External Databases)] ウィンドウで、次の情報を入力します。
- **データベース タイプ** ドロップダウンリストから **Oracle** あるいは **Postgres** を選択します。
 - マージされたデータを含む 2 つのソース データベースと対象データベースの IP アドレスとホスト名を選択します。
- [データベース タイプ (Database Type)] に [Oracle] を選択した場合、テーブルスペース名とデータベース名を入力します。[データベース タイプ (Database Type)] に [Postgres] を選択した場合、データベース名を指定します。
- ステップ 6** [Feature テーブル (Feature Tables)] ペインで、[Text Conference (TC)] チェックボックスがデフォルトでオンになっています。現在のリリースでは、その他の選択肢はありません。
- ステップ 7** [選択したテーブルの検証 (Validate Selected Tables)] をクリックします。
- (注) Cisco XCP Text Conference サービスが停止していなければ、エラー メッセージが表示されます。サービスが停止していれば、検証は完了します。
- ステップ 8** [検証の詳細 (Validation Details)] ペインにエラーがなければ、[選択したテーブルをマージ (Merge Selected Tables)] をクリックします。
- ステップ 9** マージが正常に完了したら、[外部データベースの検索と一覧表示 (Find And List External Database Jobs)] ウィンドウがロードされます。ウィンドウを更新し、新しいジョブを表示するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- ウィンドウを更新し、新しいジョブを表示するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- 詳細を表示するには、ジョブの [ID] をクリックします。

- ステップ 10 Cisco XCP Router サービスを再起動します。
- ステップ 11 両方の IM and Presence Service ノードで Cisco XCP Text Conference Service を開始します。
- ステップ 12 新たにマージされた外部データベース（接続先データベース）は、プレゼンス冗長グループに再度割り当てる必要があります。

1つの外部データベースから別のデータベースへの永続的なチャットルームの移行

既存の外部データベースからすべての常設なチャットルームを、IM およびプレゼンスノードを変更することなく、同じタイプまたは異なるタイプの新しいデータベースに移動することができます。これにより、たとえば Oracle から Oracle、Oracle から MSSQL、MSSQL から PostgreSQL までのように、すべての常設チャットルームを1つのデータベースから別のデータベースに移行することが可能になります。

この状況で、常設チャット、メッセージアーカイバ、または非同期ファイル転送などの IM サービスとプレゼンスサービスに新しいデータベースが接続されている場合、サービスはまずデータベースに IM とプレゼンススキーマが存在するかどうかを確認します。スキーマが存在する場合は、同じものを再利用します。ただし、必要なIMとプレゼンススキーマがデータベースに存在しない場合にのみ、新しいスキーマが作成されます。

データ移行後は、アプリケーションに管理者としてログインするか、テーブルに対してそれぞれの select ステートメントを実行することにより、新しく構成された外部データベースのバックエンドを介して確認できます。



(注) データベースの変更に必要な特定のレベルのアクセスはありません。

次の手順では、永続的なチャットルームを Oracle から PostgreSQL への移行が検討され、この手順で説明したデータのインポート/エクスポートに使用するツールについてのみ説明しています。この目的のために任意のツールを選択できます。

始める前に

IM and プレゼンスノードで新しい外部データベースを設定し、設定する必要があります。詳細については、[IM and Presence Service](#) での外部データベース エントリの設定を参照してください。

手順

- ステップ 1 IM and プレゼンスノードの既存の外部データベースから永続的なチャットルームをエクスポートします。

- ステップ2** 新しいデータベースにデータをインポートします。
- ステップ3** 設定されている外部データベースエントリを、それぞれの IM ノードとプレゼンスノードに割り当てます。
- ステップ4** 次のプレゼンスサービス（XCP ルーター、Text Conference Manager およびメッセージアーカイバ）を再起動します。
- ステップ5** サービスを再起動した後に確認を行うには、Cisco Jabber にログインして、チャットルームが使用可能であるかどうかを確認します。

シナリオ例

さまざまな外部データベース間で常設チャットルームを移行する方法をより明確にするために、次の手順が含まれています。Cisco Jabber と、Oracle、PostgreSQL、MSSQL などのさまざまなデータベース間で常設チャットルームを移行することを検討しています。これらの手順で説明したデータのインポートまたはエクスポートに使用されるツールは、一例にすぎませんが、この目的のために任意のツールを選択できます。

- [Oracle から PostgreSQL への永続的なチャットルームの移行（7 ページ）](#)
- [Oracle から MSSQL への永続的なチャットルームの移行（9 ページ）](#)
- [2つの Oracle データベース間での常設チャットルームを移行（10 ページ）](#)
- [MSSQL から PostgreSQL への永続的なチャットルームの移行（12 ページ）](#)
- [MSSQL から Oracle への永続的なチャットルームの移行（14 ページ）](#)
- [2つの MSSQL データベース間での永続的なチャットルームの移行（15 ページ）](#)

Oracle から PostgreSQL への永続的なチャットルームの移行

次の手順は、Jabber で作成された常設チャットルームを移行して、現在 Oracle データベースに同じ IM とプレゼンスノード用の外部データベースとして設定された新しく作成した PostgreSQL データベースに接続していることを示しています。

始める前に

- 常設チャットルームは Jabber で利用できます。
- この環境では、新しい外部データベース（この場合、PostgreSQL）を設定しています。
- この場合、お使いのマシンにデータベース移行ツール（Oracle からデータをエクスポートする **Oracle SQL Developer** や PostgreSQL からデータをインポートする **Table Plus** など）がインストールされていることを確認してください。

手順

ステップ 1 既存の Oracle データベースから常設チャットルームをエクスポートします。手順は次のとおりです。

- Oracle SQL Developer ツールを開き、データベース名、ユーザ名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細を入力して、既存の Oracle データベースに接続します。
- 接続を確立した後、次のクエリを実行して Jabber で作成した常設チャットルームを表示します。

```
select * from tc_rooms;
```

- オブジェクトツリービューから、エクスポートするテーブルを右クリックします。
- エクスポートデータ形式として [CSV] を選択します。
- 保存先フォルダを参照します。
- [Next] と [Finish] をクリックします。

これにより、Excel ファイルで選択したテーブルデータがエクスポートされます。

ステップ 2 新しい PostgreSQL データベースに常設チャットルームをインポートします。手順は次のとおりです。

- Table Plus ツールを開いて、データベース名、ユーザ名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細を入力して、新しい PostgreSQL データベースに接続します。
- Oracle データベースから以前にエクスポートした Excel ファイルをインポートします。

インポートされたテーブル名は、ツリー構造で表示できます。

ステップ 3 設定されている外部データベースエントリ (PostgreSQL として、IM and プレゼンスノード) を割り当てます。IM ノードとプレゼンスノードの外部データベースを割り当てる方法の詳細については、[IM and Presence Service](#) での外部データベースエントリの設定を参照してください。

ステップ 4 次のサービスを再起動します。

- XCP Router
- Text Conference Manager
- メッセージアーカイバ

永続的なチャットルームのユーザがルーム内でチャットメッセージを通信するまで、メッセージアーカイバの設定は必須ではありません。

ステップ 5 データ移行を確認するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 管理者として Jabber にログインし、チャットルームが存在するかどうかを確認します。
- 次の表の select ステートメントを実行して、目的のデータベースで移行を確認します。

- 常設チャットテーブル - {tc_users, tc_rooms, tc_messages, tc_msgarchive and tc_timelog}
- メッセージアーカイバ - {JM}
- 非同期ファイル転送- {aft_log}

Oracle から MSSQL への永続的なチャットルームの移行

次の手順は、Jabber で作成された常設チャットルームを移行して、現在 Oracle データベースに同じ IM とプレゼンスノード用の外部データベースとして設定された新しく作成した MSSQL データベースに接続していることを示しています。

始める前に

- 常設チャットルームは Jabber で利用できます。
- この環境では、新しい外部データベース MSSQL を設定しています。
- この場合、お使いのマシンにデータベース移行ツール（Oracle からデータをエクスポートする **Oracle SQL Developer** および MSSQL にデータをインポート **Microsoft SQL Server Management Studio**）がインストールされていることを確認してください。

手順

ステップ 1 既存の Oracle データベースから常設チャットルームをエクスポートします。手順は次のとおりです。

- Oracle SQL Developer ツールを開き、データベース名、ユーザ名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細を入力して、既存の Oracle データベースに接続します。
- 接続を確立した後、次のクエリを実行して Jabber で作成した常設チャットルームを表示します。

```
select * from tc_rooms;
```
- オブジェクトツリービューから、エクスポートするテーブルを右クリックします。
- エクスポートデータ形式として [CSV] を選択します。
- 保存先フォルダを参照します。
- [Next] と [Finish] をクリックします。

これにより、Excel ファイルで選択したテーブルデータがエクスポートされます。

ステップ 2 新しい PostgreSQL データベースに常設チャットルームをインポートします。手順は次のとおりです。

- Microsoft SQL server Management Studio ツールを開き、データベース名、ユーザ名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細情報を入力して、新しい MSSQL データベースに接続します。
- Oracle データベースから以前にエクスポートした Excel ファイルをインポートします。

インポートされたテーブル名は、ツリー構造で表示できます。

ステップ 3 設定されている外部データベースエントリ (MSSQL から IM と プレゼンスノード) を割り当てます。IM ノードとプレゼンスノードの外部データベースを割り当てる方法の詳細については、[IM and Presence Service](#) での外部データベース エントリの設定を参照してください。

ステップ 4 次のサービスを再起動します。

- XCP Router
- Text Conference Manager
- メッセージアーカイバ

永続的なチャットルームのユーザがルーム内でチャットメッセージを通信するまで、メッセージアーカイバの設定は必須ではありません。

ステップ 5 データ移行を確認するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 管理者として Jabber にログインし、チャットルームが存在するかどうかを確認します。
- 次の表の select ステートメントを実行して、目的のデータベースで移行を確認します。
 - 常設チャットテーブル - {tc_users, tc_rooms, tc_messages, tc_msgarchive and tc_timelog}
 - メッセージアーカイバ - {JM}
 - 非同期ファイル転送 - {aft_log}

2つの Oracle データベース間での常設チャットルームを移行

次の手順は、Jabber で作成された常設チャットルームを移行して、現在 Oracle データベースに同じ IM とプレゼンスノード用の外部データベースとして設定された新しく作成した Oracle データベースのインスタンスに接続していることを示しています。

始める前に

- 常設チャットルームは Jabber で利用できます。
- この環境では、新しい外部データベース (この場合、Oracle) を設定しています。
- **Oracle SQL Developer** などの Oracle からデータをエクスポートおよびインポートするためのデータベース移行ツールがお使いのマシンにインストールされていることを確認します。

手順

- ステップ1** 新しい外部データベースを作成します。
- ステップ2** すべてのノードで Text Conference Manager サービスを停止します。
- ステップ3** 設定されている外部データベースエントリ (Oracle から IM と プレゼンスノード) を割り当てます。IM ノードとプレゼンスノードの外部データベースを割り当てる方法の詳細については、[IM and Presence Service](#) での外部データベース エントリの設定を参照してください。
- ステップ4** IM and Presence のトラブルシューティングページを確認し、データベーススキーマの検証が成功したことを確認します。
- ステップ5** データベースをチェックし、テーブル、インデックス、およびストアードプロシージャが作成されていることを確認します。

何も作成されていない場合は、postDBTool_oracle.sql スクリプトをデータベースで直接実行します。

このスクリプトは、IM and Presence サーバーの
/usr/local/xcp/schemas/sql/postDBTool_oracle.sql にあります。

- ステップ6** 既存の Oracle データベースから常設チャットルームをエクスポートします。手順は次のとおりです。

- Oracle SQL Developer ツールを開き、データベース名、ユーザ名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細を入力して、既存の Oracle データベースに接続します。
- 接続を確立した後、次のクエリを実行して Jabber で作成した常設チャットルームを表示します。

```
select * from tc_rooms;
```
- オブジェクトツリービューから、エクスポートするテーブルを右クリックします。
- エクスポートデータ形式として [CSV] を選択します。
- 保存先フォルダを参照します。
- [Next] と [Finish] をクリックします。

これにより、Excel ファイルで選択したテーブルデータがエクスポートされます。

- ステップ7** 新しい Oracle データベースに常設チャットルームをインポートします。手順は次のとおりです。

- Oracle SQL Developer ツールを開き、データベース名、ユーザ名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細を入力して、新規 Oracle データベースに接続します。
- Oracle データベースから以前にエクスポートした Excel ファイルをインポートします。

インポートされたテーブル名は、ツリー構造で表示できます。

- ステップ8** 次のサービスを再起動します。

- XCP Router
- Text Conference Manager
- メッセージアーカイバ

永続的なチャットルームのユーザがルーム内でチャットメッセージを通信するまで、メッセージアーカイバの設定は必須ではありません。

ステップ 9 データ移行を確認するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 管理者として Jabber にログインし、チャットルームが存在するかどうかを確認します。
- 次の表の select ステートメントを実行して、目的のデータベースで移行を確認します。
 - 常設チャットテーブル - {tc_users, tc_rooms, tc_messages, tc_msgarchive and tc_timelog}
 - メッセージアーカイバ - {JM}
 - 非同期ファイル転送- {aft_log}

MSSQL から PostgreSQL への永続的なチャットルームの移行

次の手順は、Jabber で作成された常設チャットルームを移行して、現在 MSSQL データベースに同じ IM and Presence ノード用の外部データベースとして設定された新しく作成した PostgreSQL データベースに接続していることを示しています。

始める前に

- 常設チャットルームは Jabber で利用できます。
- この環境では、新しい外部データベース（この場合、PostgreSQL）を設定しています。
- この場合、お使いのマシンにデータベース移行ツール（MSSQL からデータをエクスポートする **Oracle SQL Developer** および PostgreSQL にデータをインポートする **Microsoft SQL Server Management Studio**）がインストールされていることを確認してください。

手順

ステップ 1 既存の MSSQL データベースから永続的なチャットルームをエクスポートします。手順は次のとおりです。

- Oracle SQL Developer ツールを開き、データベース名、ユーザー名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細を入力して、既存の MSSQL データベースに接続します。
- 接続を確立した後、次のクエリを実行して Jabber で作成した常設チャットルームを表示します。

```
select * from tc_rooms;
```

- オブジェクトツリービューから、エクスポートするテーブルを右クリックします。
- エクスポートデータ形式として [CSV] を選択します。
- 保存先フォルダを参照します。
- [Next] と [Finish] をクリックします。

これにより、Excel ファイルで選択したテーブルデータがエクスポートされます。

ステップ 2 新しい PostgreSQL データベースに常設チャットルームをインポートします。手順は次のとおりです。

- Microsoft SQL server Management Studio ツールを開き、データベース名、ユーザー名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細情報を入力して、新しい PostgreSQL データベースに接続します。
- MSSQL データベースから以前にエクスポートした Excel ファイルをインポートします。

インポートされたテーブル名は、ツリー構造で表示できます。

ステップ 3 設定されている外部データベースエントリ (PostgreSQL として、IM and プレゼンスノード) を割り当てます。IM ノードとプレゼンスノードの外部データベースを割り当てる方法の詳細については、[IM and Presence Service](#) での[外部データベースエントリの設定](#)を参照してください。

ステップ 4 次のサービスを再起動します。

- XCP Router
- Text Conference Manager
- メッセージアーカイバ

永続的なチャットルームのユーザがルーム内でチャットメッセージを通信するまで、メッセージアーカイバの設定は必須ではありません。

ステップ 5 データ移行を確認するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 管理者として Jabber にログインし、チャットルームが存在するかどうかを確認します。
- 次の表の select ステートメントを実行して、目的のデータベースで移行を確認します。
 - 常設チャットテーブル - {tc_users, tc_rooms, tc_messages, tc_msgarchive and tc_timelog}
 - メッセージアーカイバ - {JM}
 - 非同期ファイル転送 - {aft_log}

MSSQL から Oracle への永続的なチャットルームの移行

次の手順は、Jabber で作成された常設チャットルームを移行して、現在 MSSQL データベースに同じ IM とプレゼンスノード用の外部データベースとして設定された新しく作成した Oracle データベースに接続していることを示しています。

始める前に

- 常設チャットルームは Jabber で利用できます。
- この環境では、新しい外部データベース（この場合、Oracle）を設定しています。
- この場合、お使いのマシンにデータベース移行ツール（Oracle からデータをエクスポートする **Microsoft SQL Server Management Studio** および PostgreSQL にデータをインポートする **Oracle SQL Developer**）がインストールされていることを確認してください。

手順

ステップ 1 既存の MSSQL データベースから永続的なチャットルームをエクスポートします。手順は次のとおりです。

- Microsoft SQL Server Management Studio ツールを開き、データベース名、ユーザー名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細情報を入力して、既存の MSSQL データベースに接続します。
- 接続を確立した後、次のクエリを実行して Jabber で作成した常設チャットルームを表示します。

```
select * from tc_rooms;
```
- オブジェクトツリービューから、エクスポートするテーブルを右クリックします。
- エクスポートデータ形式として [CSV] を選択します。
- 保存先フォルダを参照します。
- [Next] と [Finish] をクリックします。

これにより、Excel ファイルで選択したテーブルデータがエクスポートされます。

ステップ 2 新しい Oracle データベースに常設チャットルームをインポートします。手順は次のとおりです。

- Oracle SQL Developer ツールを開き、データベース名、ユーザ名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細を入力して、新規 Oracle データベースに接続します。
- MSSQL データベースから以前にエクスポートした Excel ファイルをインポートします。

インポートされたテーブル名は、ツリー構造で表示できます。

ステップ3 設定されている外部データベースエントリ（Oracle から IM とプレゼンスノード）を割り当てます。IM ノードとプレゼンスノードの外部データベースを割り当てる方法の詳細については、[IM and Presence Service](#) での外部データベース エントリ の設定 を参照してください。

ステップ4 次のサービスを再起動します。

- XCP Router
- Text Conference Manager
- メッセージアーカイバ

永続的なチャットルームのユーザがルーム内でチャットメッセージを通信するまで、メッセージアーカイバの設定は必須ではありません。

ステップ5 データ移行を確認するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 管理者として Jabber にログインし、チャットルームが存在するかどうかを確認します。
- 次の表の select ステートメントを実行して、目的のデータベースで移行を確認します。
 - 常設チャットテーブル - {tc_users, tc_rooms, tc_messages, tc_msgarchive and tc_timelog}
 - メッセージアーカイバ - {JM}
 - 非同期ファイル転送 - {aft_log}

2つの MSSQL データベース間での永続的なチャットルームの移行

次の手順は、Jabber で作成された常設チャットルームを移行して、現在 MSSQL データベースに同じ IM and Presence ノード用の外部データベースとして設定された新しく作成した MSSQL データベースのインスタンスに接続していることを示しています。

始める前に

- 常設チャットルームは Jabber で利用できます。
- この環境では、新しい外部データベース MSSQL を設定しています。
- この場合、お使いのマシンにデータベース移行ツール（MSSQL からデータをエクスポートおよびインポートする **Microsoft SQL Server Management Studio**）がインストールされていることを確認してください。

手順

ステップ1 既存の MSSQL データベースから永続的なチャットルームをエクスポートします。手順は次のとおりです。

- Microsoft SQL Server Management Studio ツールを開き、データベース名、ユーザー名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細情報を入力して、既存の MSSQL データベースに接続します。
- 接続を確立した後、次のクエリを実行して Jabber で作成した常設チャットルームを表示します。

```
select * from tc_rooms;
```
- オブジェクトツリービューから、エクスポートするテーブルを右クリックします。
- エクスポートデータ形式として [CSV] を選択します。
- 保存先フォルダを参照します。
- [Next] と [Finish] をクリックします。

これにより、Excel ファイルで選択したテーブルデータがエクスポートされます。

ステップ 2 新しい MSSQL データベースに永続的なチャットルームをインポートします。手順は次のとおりです。

- Microsoft SQL Server Management Studio ツールを開き、データベース名、ユーザー名、パスワード、ホスト名、ポートなどの詳細情報を入力して、新しい MSSQL データベースに接続します。
- MSSQL データベースから以前にエクスポートした Excel ファイルをインポートします。

インポートされたテーブル名は、ツリー構造で表示できます。

ステップ 3 設定されている外部データベースエントリ (MSSQL から IM と プレゼンスノード) を割り当てます。IM ノードとプレゼンスノードの外部データベースを割り当てる方法の詳細については、[IM and Presence Service](#) での外部データベース エントリの設定を参照してください。

ステップ 4 次のサービスを再起動します。

- XCP Router
- Text Conference Manager
- メッセージアーカイバ

永続的なチャットルームのユーザがルーム内でチャットメッセージを通信するまで、メッセージアーカイバの設定は必須ではありません。

ステップ 5 データ移行を確認するには、次のいずれかの方法を使用します。

- 管理者として Jabber にログインし、チャットルームが存在するかどうかを確認します。
- 次の表の select ステートメントを実行して、目的のデータベースで移行を確認します。
 - 常設チャットテーブル - {tc_users, tc_rooms, tc_messages, tc_msgarchive and tc_timelog}
 - メッセージアーカイバ - {JM}

- 非同期ファイル転送- {aft_log}
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。